



いきいき ふくやま

第45号

福山市シルバー人材センター会報



二〇一六年度（平成二十八年） 定時総会開催

二〇一六年度（平成二十八年）定時総会を五月三十一日（火）「広島県民文化センターふくやま」において、会員出席一、一〇七名（当日出席者一八一名・委任状提出者四二二名・議決権行使書提出者四〇四名）のもと、午後一時三〇分より開催いたしました。開会にあたり、昨年度中の物故会員の方々に対して、ご冥福をお祈りし、全員で黙祷を行いました。定時総会の次第は次のとおりでした。

開会

物故会員の冥福祈念（黙祷）
理事長あいさつ
表彰状贈呈式（会員表彰）
来賓祝辞

二〇一六年度（平成二十八年）定時総会

(一) 定足数報告

(二) 議長選出

(三) 議事録署名人選出

(四) 報告事項

二〇一五年度（平成二十七年）収支補正予算について

(五) 議案審議

二〇一五年度（平成二十七年）事業報告について

二〇一五年度（平成二十七年）収支決算について

定款の一部変更について

理事の選任について

(六) 報告事項

二〇一六年度（平成二十八年）事業計画について

二〇一六年度（平成二十八年）収支予算について

閉会

講演『住みなれた地域でいつまでも

いきいきと暮らすために〜認知症の話〜』

役員体制

理事長

赤澤

收

副理事長

西浜

保

常務理事

浜岡

文雄

理事

橋本

哲之

柳井

清登

彦

來山

明彦

彦

平田

春夫

美

矢迫

輝美

子

中前

智恵子

生

川上

孝生

春

箱田

政春

行

小田

勝行

学

菅波

太郎

徹

内海

清徹

人

山崎

昭孝

孝

小野

繁勝

子

林田

操勝

子

高橋

和功

監事

功男

藤井

和功

理事長あいさし



本日、会員の皆様には、二〇一六年度(平成二十八年度)定時総会に、多数ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から当センターの事業運営に對しまして、ご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

ご購入の皆様には、公務ご多用の中、ご臨席を賜り、誠にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。日頃からシルバー人材センター事業に對し、格別のご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて感謝を申し上げます。

さて、福山市における六十五歳以上の高齢者の占める割合は、昨年の十二月末現在、二六・三パーセントで、全国平均を上回り、高齢化が進んでいるとあります。また、本年二月に公表された国勢調査では、我が国の総人口が初めて減少し、労働人口の減少による社会経済活動の低下が懸念されております。

このような状況の中にあつて、高齢者自身が社会の担い手として地域で活躍し、地域住民の生活をサポートして地域の活性化に寄与するシルバー人材センターの果たす役割は、ますます重要になってきております。

しかしながら、全国的な傾向ではありませんが、福山市シルバー人材センターにおきましても、ここ数年は、会員数や請負契約額の減少など、全体的に事業が伸び悩んでいる状況

となっております。

これらを踏まえ、昨年、当センターの今後五年間の事業運営の指針となる第二次中期計画を策定し、基本目標と目標数値を立て、会員の確保、就業機会の拡大、安全就業の推進、財政基盤の確立などを重点的に取り組んでまいりました。

昨年度のセンターの取組状況であります。会員の確保は、組織の根幹をなすものであり、新入会員の加入促進や退会防止に取り組む、昨年度末の会員数は前年度末と比べ八人減の一、四一〇人となりました。二〇一一年度(平成二十三年度)から続いておりました会員数の大幅な減少を抑えることができましたが、第二次中期計画で定めた会員数の目標を大きく下回り、ピーク時の二〇一〇年度(平成二十二年)の一、八四二人の七十六パーセントとなり、依然厳しい状況が続いております。

就業機会の拡大につきましては、これまでの継続契約者を大切にしながら、新たな事業形態の派遣業務を含め、就業の開拓と確保に努めてまいりました。

請負契約額においては、適正就業の対応による直接雇用への切り替えをはじめ、企業からの受注減や公共業務の業務量減などもあり、受注件数では、前年度に比べ二四〇件減、率にして二パーセントの減、契約額では、約二、五四〇万円減、率にして四・四パーセントの減となり、目標を達成することができませんでした。

一方で、派遣業務においては、受注件数が

大幅に伸び、目標を上回る二、一〇〇万円余りの契約額となっております。

この派遣業務につきましては、高齢者の就業の拡大の観点から、この四月から法律が改正され、概ね週二十時間から週四十時間まで一定の条件を満たせば就業が可能となります。今後、会員の皆様に具体をお伝えしながら、この派遣事業にも力を注いでまいります。

安全就業につきましては、就業途上の交通事故や就業中の転倒事故なども発生して前年度の事故発生件数と比べ倍増し、二十一件となりました。今後も引き続き、事故から会員を守るための安全対策に取り組んでまいります。

収支の面では、請負契約額が減少したものの、派遣業務の業務拡大や効率的な予算執行と経費節減などに取り組み、決算では、黒字を確保することができました。

これは、会員の皆様のご努力と福山市をはじめ関係機関のご支援の賜物と感謝いたします。次、センターの今年度の計画の概要を申し上げます。

昨年策定した第二次中期計画に基づき、引き続き事業を展開してまいります。多様化する市民ニーズなどに的確に対応しながら、会員の確保と会員の幅広い就業ニーズに対応できる就業機会の拡大に取り組んでまいります。

特に、会員の確保は喫緊の課題であり、入会希望者のニーズに沿った情報提供などにより新規入会者の確保に努める考えであります。

あわせて、引き続き派遣業務などの仕事を開拓し、会員の多様化する就業形態に対応した就業機会の提供などを通して会員の退会防止に取り組んでまいります。会員の皆様にも、会員の確保に向け、知人の勧誘などの取組をお願いいたします。

就業面では、安全・適正就業はシルバー事業の基本でありますので、引き続き「事故ゼロ」を目指して、安全・適正就業に取り組んでまいります。

センターの運営にあたりましては、自主運営組織としての機能強化を図るとともに、引き続き、効率的な予算執行と経費節減に取り

来賓

当日は来賓として、次の五名の方々にご出席いただき、来山明彦市長代理、小川眞和市長会議長から祝辞をいただきました。

福山市保健福祉局長寿社会応援部長

来山明彦様

福山市議会議長

小川眞和様

福山公共職業安定所所長

宮村 洋様

福山市社会福祉協議会会長

橋本哲之様

福山市老人クラブ連合会会長

柳井清登様

組み、公益社団法人として健全な財政運営に努めてまいると考えております。

福山市シルバー人材センターは、一九八六年(昭和六十一年)十月に設立されて以来、本年で三十年を迎えております。この節目の年を、会員の皆様や関係者の皆様と祝い、当センターのさらなる発展を期して、九月二十五日には、設立三十周年記念式典を開催いたしますので、多くの皆様のご参加をいただきたいと思っております。

今後とも、「信頼され、愛されるセンター」を目指し、会員の皆様と役員が一丸となって事業に取り組んでまいりたいと思っております。

会員表彰

(敬称略・会員番号順)

続いて、シルバー人材センターの発展に尽力され、十年間在籍された会員三十九名が表彰されました。表彰を受けられたのは次の方々です。

寺澤 秋男(竹尋)

森下 勇(東)

橋本 幸子(新涯)

佐藤 正春(今津)

佐藤 時晴(樹徳)

永井 工(山南)

末廣 敏勝(坪生)

ますので、引き続き、会員の皆様のご協力をよろしく願います。

このあと、当センターに十年以上在籍されました会員三十九名の方々の表彰を行います。表彰を受けられる皆様には、長年にわたり当センターを支えていただいておりますことに感謝を申しあげます。

最後になりますが、本日の総会では、事業報告や収支決算、定款の一部変更、役員などの議案を提出しておりますので、どうか、慎重なご審議をいただき、ご賛同をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたってのごあいさつといたします。

片山 命弘(神辺)

佐藤ツチ工(柳津)

山迫 英樹(光)

山本 進(西深津)

藤井 政雄(中条)

弓井美穂子(多治米)

栗田 進康(戸手)

井亀 靖子(新市)

能登富之助(鞆)

柴田 和広(引野)

道上 俊巳(東)

藤岡 信男(松永)

渡壁 廣幸(久松台)

田辺 靖夫(御幸)

橘高 元子(神村)

井上 敏(瀬戸)

三谷 元昭(金江)

桑木 悦三(藤江)

土井 敏明(新市)

児玉 始美(神村)

兼下 忠士(御幸)

田中 宏幸(大谷台)

大澤 敏雄(久松台)

細羽 純子(御野)

垣上 快雄(川口)

高上 安史(新市)

網干 悦子(光)

瀬崎 忠義(春日)

森信 慶彦(川口東)

大友 政勝(泉)

宮崎 幸子(新涯)

橋本 玲子(曙)

議事

定時総会は、議長に大澤敏雄会員を選出し、議案の二〇一五年度(平成二十七年)度)事業報告と収支決算、定款の一部変更、理事の選任について、原案のとおり承認されました。承認された定款の一部変更と理事の選任についての内容は次のとおりです。

「定款の一部変更について」

- ① 法改正により、一般労働者派遣事業から労働者派遣事業に事業名を変更しました。
- ② 正会員の入会手続きの迅速化のため、入会承認を理事会から理事長へ変更し、理事会へは、事後に報告することにいたしました。
- ③ 定時総会の開催期を毎事業年度終了後二ヶ月以内から三ヶ月以内に変更しました。

「理事の選任について」

福山市推薦理事の辞任による後任理事として、來山明彦さんを選任しました。

また、報告事項の二〇一五年度(平成二十七年)度) 収支補正予算、二〇一六年度(平成二十八年)度) 事業計画と収支予算について説明を行いました。

質疑応答

議案審議・報告事項に関する質疑応答、意見等の概要は次のとおりです。



◎二〇一五年度事業報告について

問 二〇一五年度事業報告の中で就業状況の受託件数が昨年度より一四八件の減。就業延人員も五、〇七四人減となっている。今年も赤字で気になるほどのことではないが、どういう状況で減となっているのか。

答 適正就業の関係で直接雇用に切り替わったことや、企業からの受注減等により継続就業していた業務が減となりました。また、公共業務で業務量が減となったことから、契約件数並びに就業延人数が減ったものです。

◎会員確保・就業拡大・ホームページについて

問 事業計画で、会員の確保、就業拡大の具体が見えてこない。入会説明会は、センター本部・北部中心で東部や南部で実施しているが、中心部での入会説明会の開催を考えるとどうか。

例えば、中心部には、参画センターやローズコムなどの施設があり、そうした場所で開催すれば集まりやすいのではないかと。就業拡大・ホームページについて、仕事が頼みやすいページになっているのか。

現在の就業募集案内を会員が随時見ることができれば就業のチャンスが広がるのではないかと。他都市のホームページをみて研究し、良いものにしてもらいたい。

私たちも、今から入ってくる会員もパソコンを使ってきた世代が増えており、スマートフォン

ンを使用している人もいるので、それらを利用して会員に情報提供をする等活動をすれば就業拡大も会員確保もできるのではないかと。

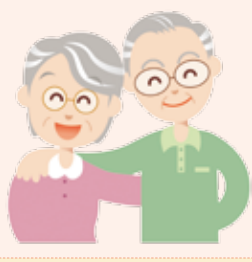
答 会員の確保はセンターにとって根幹を成すものです。会員を確保するためには、入会者をいかに増やすか。退会者をいかに減らすか。この二つのことが大きなことと思っています。

中心部での説明会の意見もありましたが、そうしたことも検討していきたいと思っております。また、入会者が希望する情報とは何かといったことも踏まえて入会説明会で情報提供を行うことが必要と考えています。

入会については、理事長の承認により「会員の即時入会」を議決いただきました。これは、就業にすぐ就くことが退会防止に繋がるの考えからです。また、現在退会する会員に対しても電話でフォローするなどの取組を行っています。

就業拡大については、会員が希望する業務内容も多様化しています。こうしたことから派遣業務について専門員を配置して拡大に取り組んでいる状況です。派遣業務の取組の中で請負業務も受注できており、引き続き就業拡大に取り組んでいきます。

ホームページについては、七月頃に全面刷新の予定です。このホームページのソフトの更新により、スマートフォンからも情報が得られるようになります。



ご意見

次の貴重なご意見をいただきました。

◎退会者の声

「入会して半年、一年以内で退会する人がいる。就業日数が確保できない、希望する仕事に巡り合わせがないから退会をすると言われる話があるので、そこを検討して取り組んで欲しい。」

他の質疑や意見はなく、定時総会が終了しました。

講演

福山市保健所 健康推進課から「住み慣れた地域でいつまでもいきいきと暮らすために『認知症の話』」と題し講演を頂きました。

◆認知症とは

- ① 認知症は脳の病気です
- ② 心配なもの忘れがある時は、早めに相談しよう
- ③ 早期発見により、早いうちに支援につなげる事ができます

◆予防するための日常ポイント

- ① 生活習慣病の予防と治療
- ② 食生活に気をつけよう
- ③ 適度な運動を心がけよう
- ④ 日常生活を活発にしよう



設立30周年記念行事 記念式典のお知らせ

30th Anniversary

1986年(昭和61年)10月に設立以来、本年で30年を迎えます。
記念事業として、記念式典を次のとおり開催いたしますので
皆さまのご参加をお願いいたします。

- ◆日時 2016年 **9月25日** 日 13時30分～16時30分
- ◆場所 **ふくやま芸術文化ホール(リーデン・ローズ) 大ホール**

記念式典

【記念式典】 役員表彰・会員表彰 など

【記念講演】 演題/「目利きの人生談義」 講師/ 中島 誠之助さん
古美術商だった経験を生かして骨董品の鑑定と解説に活躍。テレビ「開運!なんでも鑑定団」にレギュラー鑑定士として出演。「いい仕事してます」の名言句で「ゆうもあ大賞」を受賞されています。

●詳しい記念行事内容は、後日連絡いたします。



中島 誠之助さん



長引くせきは赤信号 正しく知ろう結核

《結核は過去の病気?》

昭和二〇年代までは「国民病」と恐れられた結核も生活水準の向上や医学の進歩によって、急速に改善されてきました。しかし、日本で新たに結核と診断された人は平成二十六年において一九、六一五人で、多くの人が発病しており、現在も日本の重大な感染症です。

《結核ってどんな病気?》

初期症状は風邪によく似ていますが、主に次のような症状が現れます。

- せき (二週間以上続く)
- たん
- 発熱(微熱)が続く
- 体がだるい
- 体重が減る
- 食欲がない
- 寝汗をかく



このような症状が続くときは医療機関を受診しましょう。また、人にうつさない為に、せきが出る時はマスクをつけることを心がけましょう。

早期発見は重症化を防ぐだけでなく、家族や友人、職場などへの感染拡大を防ぐためにも重要です。

《結核ってどうやってうつるの?》

結核は、発病した患者さんがせきをしたときに飛び散るしぶきの中の結核菌を吸い込むことで感染します。



《もし結核にかかったら》

現在では結核によく効く薬が開発され、数種類の薬を六〜九か月間服用することで、短期間で治すことができるようになっています。

《発病・再発に要注意》

福山市では平成二十六年に六十五人の方が結核を発病しており、そのうち約六〇パーセントが七十歳以上の高齢者です。

高齢者は、かつて結核が猛威をふるった時代にすでに感染している場合が多く、年齢を

《結核を予防するために》

- ①一年に一回は胸のレントゲン検査を受けましょう。
- ②バランスのとれた食生活・適度な運動・十分な休養を心がけ、抵抗力を高めましょう。

《結核に関しては、どこに相談したらいい?》

保健所では、結核と診断されて治療を受ける場合の医療費の公費負担制度や、家族や周囲の人への感染が心配な場合における健康診断、保健師による家庭訪問など、感染症法に基づいた対応に取り組んでいます。お気軽にご相談ください。

詳しくは
福山市保健所 保健予防課
(〇八四) 九二八-一-二二七へお問い合わせください。



交流ひろば



「シルバーテニス遊」

会員 増成 重由

年明けて二月某日、六十八歳の同年代四名が八カ月ぶりに再会して、テニスで遊んだ。五年前、シルバー人材センターの会員となつた私と同期の二人が、初仕事で、公園の草取りをした時だった。作業しながら、現役時代に毎週末テニスをやっていたお互いの自己紹介の話から、遊びが始まった。

他にテニス好きの二人を探して、四名になるのに、さほど時間は要らなかった。それ以来、暇な時間が見つかる、コツコツとゲームを楽しんできた。

寒さの中、二十分程度の体慣らしをやって、ダブルゲーム開始。いつものように、グーパーで組合せを決めて、先ず、サーブが入らない。距離感が回復せず、ここごとくネットにかかってしまう。ダブル・フォールの連続。足は動かさず、前へ横へ揺さぶりがかかると、あと一歩で、球はラケットの軌道を外

れて先へいってしまう。それでも、一ゲーム、二ゲームと、重ねるごとに徐々に勘は戻ってきた。ナイスサーブ、ナイスリターン、ナイスドロップ、ナイスボレー。スマッシュも出始める。いい声がかかって、笑い緊張感が脈をうつように、コートの中を揺れ動く。クブ打ちが始めると、クブで返す。何度も繰り返すことが基本。そのうち、我慢できなくなって、不思議と低球を打ち返す方が負けて、ネットにかかることが多い。

得意な人はドライブもかけてくる。外へ逃げるサーブ、バウンドしてネットの方向に逆戻りするサーブ。ネットの支柱の外側からインしてくるリターン球。高くあがって、いかにもアウトと見せかけて、突然に球速を落としたりターンが、急降下して、アウトラインのギリギリにイン。それでもドライブをかけているからだという。様々な技がでてくる。私は、変化球を使わず、フラットで打ち返すボールが好きだ。球速があつて決まれば威力あり、自他共に公認。ネットギリギリに越えて、相手がラケットを出す前には、すでに着地している速球を狙って、決まれば「今日一の大満足。ラケットを振るがかりもしない、直球サーブが決まった時、その爽快感も極上だ。ナイスサーブ、ナイスショットの声をかけて、自分で自分をほめたたえる。熱が入ると、チャレンジ!の声も出る。テレビカメラがあるわけではないのに、そこは遊びで、おもしろい。ラリーが続くと、ゲームカウント

が判らなくなつて、時々、確認しあうことがある。それでも全員が揃って記憶不良のこともあり、合議で確認したりもする。勝ち負けにはこだわらない。

そんな遊びも、二時間を走り回って、よい汗と笑いをまき散らしてさて、次はいつ?決まらない。また連絡をね、で別れるのが常。昨年は、一年間で四回遊んだかと思う。今年は、一回でも多く、遊べたらよいと思う。

「日常雑感」

会員 林 操子

毎朝、一緒にラジオ体操をしている友人から、読み終えた月々の「東部農業誌」を譲り受けるようになって長い。二十坪ほどの畑を借りての野菜作りが、かれこれ十年になる。その野菜づくりのヒントが得られ、助かっている。

野菜づくりは、昔祖父母たちがやっていたので、根っからの素人ではないが、風土による違いがあり、作り方や作業日程がそれで調整できるから安心できる。

この野菜作りは、多忙な時もあるが自身に生気を与えてくれる。子育ては、成長するに従い、手を離すな、目を離すな、心を離すなと言いつつ成人するまで責任は重い、野菜は、お天道さま次第でもあり、それで目をかけ施

したぶんだけの収穫である。作柄には、一喜一憂である。豊作時はご満悦、いつまでも見とれていて食す時期を逃しそうになることもあり、周囲の仲間から収穫を促されることもある。不出来でも捨てることはない。

とれたての野菜は、いつもシンプル料理でいただく。みずみずしく、味が良く少しばかりの幸せを感じたりしている。

いただいた冊子は、まめに隅々まで見る方で、今回は特に「食育日記」の味蓄(みづい)のことが目にとまった。

人は舌にある味蕾(舌の粘膜の各乳頭内にある卵形小体)で味覚を認識するが、何と乳幼児期は一万個もあるそうで、高齢になるとそれが三十パーセント〜五十パーセントに減るそうだ。びっくりだ。

その原因は、長年のうちに濃い味に慣れてしまったり、煙草や嗜好品の摂取によるようだ。この味蕾は、新陳代謝の活発な細胞で、日々生まれ変わり復活もするそうで、これを保ち続けたり、生まれ変わらするためには、食材をできるだけそのまま利用したり、薄味を心がけて亜鉛類(煮干し、魚、卵、肉…)が不足しないようにすることが良いそうである。まずは、手塩にかけた手元の野菜利用から豊かな舌の感覚を呼びもどしたいと思ったりしている。

僅かな、人生になりつつあるが…

二〇一六年北部ブロック

「第七回地域班交流

グラウンドゴルフ大会」開催

会員 小川 勝 行

去る六月二十六日(日)北部地域班(神辺・御野・竹尋・湯田・中条・道上・新市・駅家東)による恒例のグラウンドゴルフ大会が開催されました。

今年も、地域外からの参加をいただき総勢四十一名の参加を得て神辺町の「四季の森グラウンドゴルフ場」に於いて、会員相互の親睦と健康づくり、そして地域班の活性化”を目指して終始なごやかな雰囲気の中で熱戦が繰り広げられました。

今年も、当初予定していた開催日が残念ながら雨になり、一週間遅れの開催となりました。先日の雨でグラウンドの状態が少し気になりましたが、当日は多少の雲があったものの雨の心配もなく、絶好のグラウンドゴルフ日和となりました。

予定通り八時三〇分から内海理事の開会の挨拶で始まり、来賓として本部より、浜岡事務局長、北部より高橋所長のご出席をいただき、浜岡事務局長よりご挨拶をいただきました。

ルール・注意事項等の説明後、笛を合図に九時より二ゲーム(十六ホール)の熱戦が繰り広げられました。

ゲーム終了後、成績

が発表され、表彰は上位三位までとし、高橋所長より表彰状が渡されました。賞品は折りたたみ式自転車を始め会員が持ち寄った景品を順不同で抽選し、思いの賞品を手にして楽しいグラウンドゴルフ大会を終了しました。



お世話して下さった地域班の役員の皆さんにお礼申し上げます。次回も交流会の出来ることを約束して散会しました。

成績は次の通りです。

- 優勝 渋谷 太郎(有磨)
- 準優勝 竹井 和弘(湯田)
- 第三位 川上 宗利(御野)

「川柳」

会員 橋 高 偉 郎

スーパーで 試食品食べて 又来ます

待合室 マスクずらして おおあくび

草刈り中 うぐいすが鳴く 人生の味

事業

報告



会計監査

◎四月二十七日(水)開催

内容

- ①二〇一五年度(平成二十七年) 事業報告について
- ②二〇一五年度(平成二十七年) 収支決算について

理事会の開催状況

◎五月二日(月)開催

内容

- ①二〇一五年度(平成二十七年) 事業報告について
- ②二〇一五年度(平成二十七年) 収支決算について
- ③理事候補者の選考について
- ④表彰について
- ⑤二〇一六年度(平成二十八年度) 定時総会について
- ⑥正会員について
- ⑦理事長に対する権限委任について
- ⑧未収金の回収状況について

各種委員会の開催状況

◇理事会専門委員会

総務委員会

四月 十八日(月)

事業委員会

五月 十七日(火)

普及啓発委員会

四月 十八日(月)

安全管理委員会

五月 十七日(火)

安全委員会

七月 十二日(火)

広報編集委員会

六月 二十四日(金)

記念式典部会

六月 十五日(水)

設立三十周年記念事業実行委員会

七月 二十一日(木)

設立三十周年記念事業について

安全管理体制や、事故の分析と事故防止対策などの協議や、安全パトロールも実施しました。

◇広報編集委員会 六月二十四日(金)

「いきいきぶくやま」第四十五号の発行について協議しました。

◇広報部会

六月 十五日(水)

記念誌の構成、作業スケジュールについて協議しました。

◇記念式典部会

六月 十七日(金)

表彰や記念品、講演会について協議しました。

◇設立三十周年記念事業実行委員会

七月二十一日(木)

記念式典部会及び広報部会での検討内容の報告を受け協議し、行事内容を決定しました。

熱中症対策期間と就業ルールについて

実施期間

七月二十五日(月)～八月三十一日(水)

対象業務

屋外作業(草刈、除草、運搬、剪定等)

就業時間

原則として八時～十二時

休憩時間

三十分ごとに五分程度

※発注者の承諾を得ること

十分頃に十分程度の休息を取ること

水分等補給

必ず水分・塩分を補給すること

服装

後頭部、首を暑さから守るものを着用すること

◇ただし、①～③のすべての条件があてはまる場合は八時以前の就業開始も認めます。

①業務先、周辺に騒音等(機械使用、会話、準備で生じる音等)の影響が及ばない場合。

②開始予定時間が発注者の負担・迷惑がかららない時間帯である場合。

③発注者が了解する場合。

◇状況によっては、リーダーの判断で作業を中止します。また、やむを得ず午後には作業が繰り越す場合は、事務局へ連絡してください。

発注者及び周辺環境に騒音等の迷惑がかかることがないよう、十分に配慮をお願いします。

事務局だより

事務局だよりには、会員の皆様への大切なお知らせ等が掲載されておりますので、必ずお読みください。

会員確保のご協力を！

～お友達を紹介ください～

入会の呼びかけにご協力をお願いいたします！

会員確保に向けて、会員一人ひとりがお友達、知人に声掛けをし、紹介をお願いいたします。



説明会に参加できない場合は、事務所ですぐ入会説明を行っていますので、このこともご周知ください。

◎入会説明会日程

- 八月 二十五日(木) 本部、北部事務所
- 九月 六日(火) リム福山七階
- 九月 二十九日(木) セミナールームC
本部、北部事務所

◎入会に必要なもの

証明写真二枚、印鑑、振込先のわかるもの、年会費二、四〇〇円

「就業相談」

毎月第四木曜日に事務局(本部)で就業相談を行っています。希望される方は、ご遠慮なく事務所へお越しください。

※詳しいことは事務局へ問合せください。

正会員会費未納の方へ

シルバー人材センター会員は、定款の規定により、毎年年会費(二、四〇〇円)を納めることになっております。皆さまの会費は、センターの運営にはかせないものです。今年度の会費が未納の方は、早急に納めてください。

さわやかまなび教室 ～夏休み期間中だけの参加も可能～

退職した教師(会員)が子ども達の個々の能力にあわせて、基礎学力を中心に、子ども達に一对一で納得するまで指導しています。わかることの楽しさ、喜びを体験する姿に接することで、個性豊かな自主性のある子どもに成長するよう支援しています。

お知り合いの方へのPRをお願いします。また、お孫さんの入会も大歓迎ですので、夏休みに一度見学にお越しください。

- ・場所 東部市民センター二階で毎週土曜日
- ・時間 午前九時三〇分～午前十一時三〇分
- ※夏休み中は木曜日と土曜日等に実施

詳しいことは、事務局(本部)へ問合せください。



「いきいきぶくやま」原稿募集

題材は自由ですので、仕事・趣味・旅行の感想など四〇〇字詰原稿用紙一枚程度に書いて、事務所「会報いきいきぶくやま係」までお送りください。

写真・短歌・俳句・詩などを募集しています。

次回の発行は二〇一七年(平成二十九年)一月です。



発行/公益社団法人福山市シルバー人材センター

【本部】福山市新涯町二丁目21番30号
TEL(084)953-5222 FAX(084)953-5233

【北部事務所】福山市神辺町大字川北1349番地
TEL(084)963-9555 FAX(084)963-9556

メールアドレス fukuyama@sjc.ne.jp
URL <http://www.sjc.ne.jp/fukuyama/>
編集/会報編集委員会

会員数(6月末現在)

男 985人 女 443人 計 1,428人